

張召忠；中国空母が外洋に出れば、外国軍は偵察を強行するだろう。

2013 年 09 月 25 日 08:18 ソース：人民網—軍事チャンネル

阿部信行

(訳者コメント)

最近、中国の軍事関連サイトに、上海市長興島の造船所で建造中の中国空母の一部と見られる投稿写真が掲載されました。

これを報道した JANE'S DEFENCE WEEKLY(JDW) の記事に対し、中国海軍の軍事評論家張召忠氏が人民網の取材を受け論評しました。彼は投稿写真が国産空母の一部であるとは認めていませんが否定もしていません。

この記事の中で、建造中の船体のサイズを推測していますが、”遼寧”に比べ小型であり、キエフ級のサイズです。だとすると、ヘリ空母か？

現在、スクラップを修復した旧型空母を使って各種実験中の中国海軍が、空母の運用について何らかのコンセプトをすでに確立したとも思われません。

いずれ姿を現せば、中国海軍の運用思想が明確になると思います。

添付写真は、上海に近い江南造船集団長興島造船工場内で建造中の艦船船体を中国国産空母第一号の一部の可能性があると説明している。



人民網北京 9 月 25 日電（記者 黃子娟）

最近、外国メディアは、中国軍事論壇及びネット上に投稿された一組の船体写真を示し、これは中国国産第一号の空母の一部分である可能性があると述べた。この報道は大きな注目を集めた。中国国産空母建造のニュースに外国メディアが報道を過熱させていることに対し、中国の軍事専門家で海軍少将の張召忠は、取材時次のように述べた。「中国海軍が外洋に出れば、過去の伝統ある海洋国家と衝突する。したがって彼らは、中国海軍発展の兆候に特別の関心を払っている。これは当然だ」と。

英国 JDW (JANE'S DEFENCE WEEKLY) は、8 月 2 日、ホームページ上で、「最近、中国軍事論壇及びネット上に一組の船体写真が掲載された。この写真は、上海に近い江南造船集団長興島造船工場内で建造中の艦船船体を示しており、中国国産空母第一号の一部である可能性があると述べた。報道によると、2013 年 3 月 3 日、米国デジタルグローブ会社が撮影した長興島の衛星写真は、この一組の船体写真を裏付けた。この船体の竜骨は、隣接するドックで建造中の商用船の竜骨とは明らかに異なっている。

長興島の船体を撮影した衛星写真によると、喫水線部位の幅は、24 m から 27 m であり、飛行甲板に連なる頂部では幅が 46 m から 52 m である。航空機修理庫として確保される艦首部の船室は幅が 20 m 乃至 22.3 m、高さが 4.5 m 乃至 5.1 m である。船体中部の船室は更に広くなる可能性がある。“遼寧艦”及び姉妹艦の“アドミラル・クズネツォフ号”の飛行甲板の最大幅は、約 70 m であり、喫水線部位の幅は 37 m である。インドのキエフ級空母“超日王”号（旧ソ連のアドミラル・ゴルシコフ号）は、比較的小型で飛行甲板の幅は 51 m であり、喫水線部位の幅は 32.7 m である。

張召忠は、中国国産空母に世界が大きな関心を持っているとの問いに、「私個人は、良いことだと思っている。第一、中国経済は現在世界第二の規模である。かつて我々は空母を持ちたくても資金がないため持てなかった。現在資金は問題でなくなった」と述べた。

また張召忠は、「空母を保有した後、中国海軍は空母を中心とする戦闘群を編成する。海軍にとって、外洋に進出することは極めて重要だ。しかし外洋に出ることは、過去の伝統的海洋大国である日本、オーストラリア、米国と衝突を引き起こす。彼らは、中国海軍の発展の兆候に特別の関心を持っている故に、中国海軍が出港すれば、彼らは当然偵察を強行する。その間に衝突も起こる。彼

らが中国海軍に関心を持つことは極めて正常である、と私は思う」と述べた。

以上